

野草観察

花のつくり

梅雨時の鬱陶しい日々が続いていますが、野草は元気に花を咲かせてくれています。この時期、身近で見られる5種について、それぞれのつくりを紹介いたします。ルーペなどで確認してみてください。

1. カタバミ

花は直径約8mmで、各部は5の数を基本とした整った形をしています。

花びらは5枚、花の中心には先が5つに分かれた雌しべと、長短10本の雄しべがのぞいています。

花は日が当たると開き、4時間ほどで閉じます。天気の良い日は閉じたままです。



2. セイウタンポポ

1個の花のように見えるのは、何百という小花(しょうか)の集まりで、これを頭花(とうか)といいます。

頭花の直径は3.5~5cmほどです。小花の形は変わっていますが、舌状花という一人前の花なのです。



3. ハキダメギク

頭花は直径約 5mm で、外側に王冠の形をした白色の舌状花がふつう 5 個並び、内側には星の形をした黄色の筒状花が多数つき、中心に向かって咲いていきます。

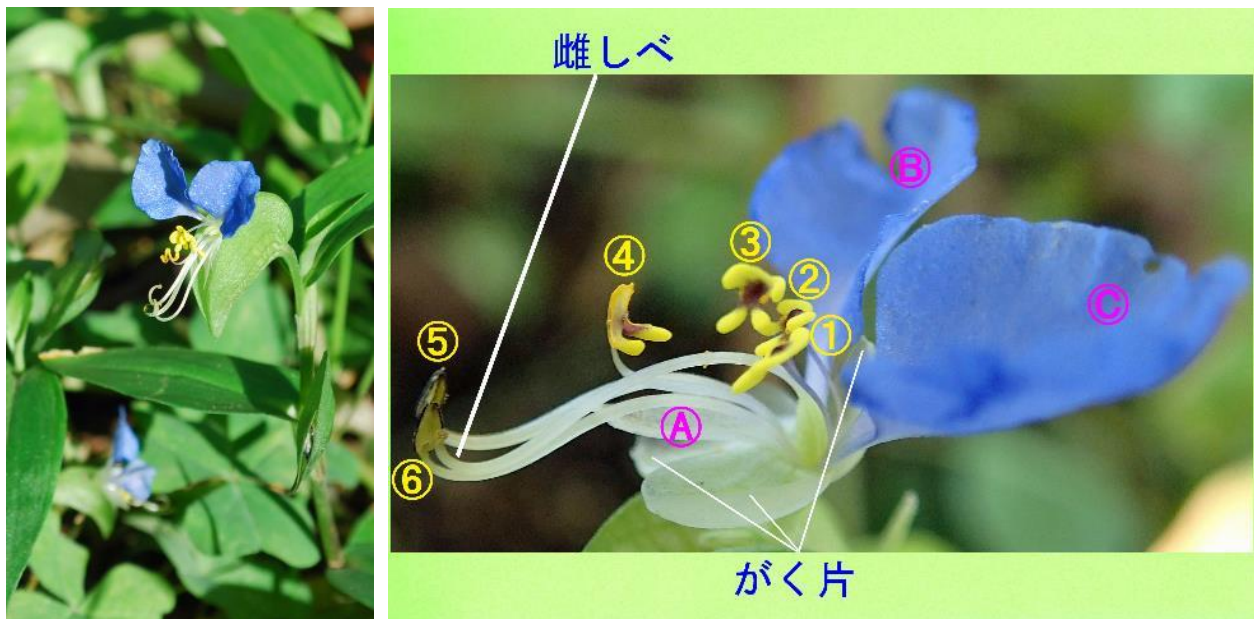


4. ツユクサ

花びらは 3 枚で、下方の 1 枚 (A) は白く、長さ 4~5mm、上側方の 2 枚 (B、C) は青色で大きくて目立ち、長さ 10~13mm ほどです。

雄しべは 6 本ありますが、黄色く目立つ 3 本 (①、②、③) には花粉がなく、真ん中の 1 本 (④) は花粉を少し出します。長い 2 本 (⑤、⑥) が雄しべとしての実働部隊です。

雌しべは 1 本で長い雄しべと同じように突出しています。がく片は 3 枚あります。



5. ドクダミ

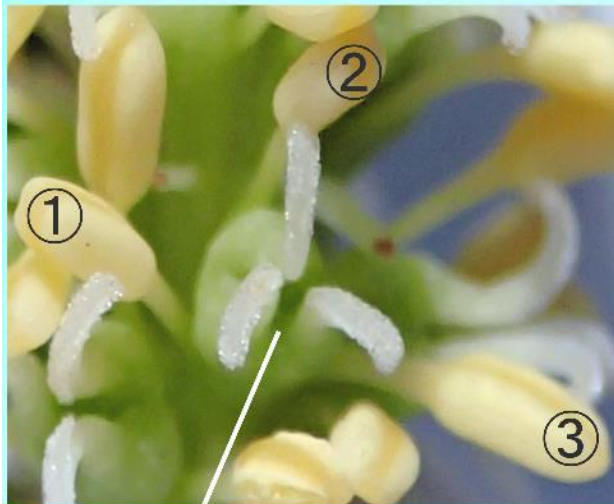
写真左：花びらのように見えるのは、つぼみのとき花全体を包んでいた4枚の総苞片（そうほうへん）です。小さな花が中央に集まって下から上へ咲いていきます。

写真中：花に花びらはなく、先が3つに分かれた雌しべと3本の雄しべだけのシンプルなつくりです。

写真右：果実は熟すと裂けて種子を出します。熟しかけの果実（直径約2mm）から種子を取り出してみました。



つぼみ



雌しべ 1

雄しべ 3

①～③



果実



種子